

平成22年度自己評価及び学校関係者評価

兵庫県立氷上西高等学校

学校教育目標	本年度重点目標
<p>1 教育目標 生徒一人一人の個性と能力の伸長を図り、人間としての誇りと豊かな心を育み、活力あるたくましい生徒を育成する。</p>	<p>3 本年度重点目標</p> <p>① 小規模校の特性を活かした教育内容や指導方法を工夫し、基礎・基本の確実な定着を図る。</p> <p>② 生徒一人一人の的確な実態把握と生徒理解に努め、基本的生活習慣の確立と社会性の育成を図る。</p> <p>③ 本校の教育活動についての広報活動を積極的に展開し、地域住民の理解を得るとともに、開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>④ 地域の中学校や住民、関係機関等との連携を深め、「県立高等学校地域連携支援事業」を積極的に展開する。</p>
<p>2 教育方針</p> <p>① 学校・保護者・地域との連携を密にし、地域に根ざし地域に信頼される魅力ある学校づくり、特色ある学校づくりを推進する。</p> <p>② 日常生活におけるさまざまな教育活動を通じて、自主・自律の精神と豊かな感性を育み、創造力と豊かな公德心を培う。</p> <p>③ 温かさと厳しさの調和した人間的なふれあいに基づく生活指導を通して、生徒一人一人の生き方に関わる主体的な進路選択能力を培う。</p> <p>④ 人と人との絆を強め、公共心と福祉の心を育み、社会の変化に主体的に対応できる能力と生涯学習社会をたくましく生き抜く力を培う。</p> <p>⑤ 自国や諸外国の歴史・文化・伝統などについての理解を深め、国際社会と共生社会に生きる人間としての在り方や生き方を考えさせる。</p>	<p>継続的目標</p> <p>4 継続的目標</p> <p>① 体験を重んじ郷土理解を推進する「高校生地域貢献事業」「高校生就業体験事業」「総合的な学習の時間」などの教育活動を通して、「心の教育」の充実と「共に生きる心」を育む。</p> <p>② 進路実現のための取組や資格取得の機会を強化するとともに、地域と連携した教育活動や生徒会活動・部活動などを通して、母校と自分に誇りを持つ生徒を育成する。</p> <p>③ 「教育の専門家」としての自覚を強く持ち、一步踏み込んだ信頼関係に満ちた師弟関係を構築し、「教え、論し、育てる」ことの実践力向上を図る。</p>

学校評価の実施方法についての学校関係者等評価
<p>学校評価の実施方法について、本校独自の評価項目・実践目標を設定し、その成果をもとに生徒アンケート・保護者アンケート等の結果も参考にした自己評価をおこなっており、適切に実施されている。保護者アンケートについては、経年比較を可能にするため、設問事項が毎年同内容となっているが、保護者の意識を一層高めることを目的とする設問項目も設けてよいと考える。</p>

総合的な学校関係者等評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ 改編に向けた学校の取組がタイムリーによく広報されており、地域の学校に対する評価や支援の意思が高まっている。地域の学校としてのさらなる発展に協力したい。 ・ 保護者アンケートの結果を過年度と比較すると、ほとんどすべての項目にわたって評価が向上している。また、生徒指導及び進路指導に関するデータも改善に向かっていくことを示している。学校改革に向け、職員がよく取り組んでいる証だと思う。今後も、根気強く取り組み、さらに発展させることを期待する。 ・ 学校や地域の活性化に向け、地域の小中学校等をはじめ、行政及び諸施設・地域住民との連携が今まで以上に一層進展している。次年度に向けて地域の核施設としてさらに連携を深めてほしい。 ・ 西高にしかできない特徴的な類型の設置や教育活動を企画・実施する必要がある。

★ 各部・学年目標 <評価基準> A・・・よくできた (4) B・・・できた (3) C・・・余りできなかった (2) D・・・できなかった (1)

領域	評価観点	評価項目	実践目標 (チェックポイント)	成果	評価
総務部	開かれた学校づくり	高校生地域貢献事業	●「福祉教育講座」、「オープンハイスクール」など地域の人材を有効に活用し地域に根ざした内容となるよう企画・運営する。	地域の人材をさらに有効に活用することはできなかったが、給食配送など青垣中学校と合同で実施し、中高連携の礎をつくることのできた。	3.1
		P T A活動の支援	●P T Aだより作成、運営部・研修部との連携などP T A活動がスムーズに進むように理事会を支援する。	もみじマラソンでは多くの保護者の方に応援に来ていただいた。交通立番の出席率が低いので内容の改善が必要である。	2.7
		広報活動	●「スクールニュース」を幅広く配布すること、ホームページの更新を頻繁にすることなどにより広報活動に努める。	スクールニュースの配布を全職員で担当するようにした。掲示場所の拡大に努めて、新規も増えた。校外掲示板を設置し、近隣への広報に成果があった。	3.8
		学校行事への地域住民等の参加	●体育大会、文化祭、オープンハイスクールなどの行事を積極的に開かれたものにし、保護者や地域住民の参加を促進する。	体育大会では支援する会の協力で入退場門の制作、文化祭では地域の方の展示・発表、P T Aの協力でO Bのバザーを実施し、多くの来校者があった。	3.2

地域に信頼される学校づくり	式典行事	●着任式、入学式、離任式、始業式、終業式、卒業式等の式典を企画、厳粛に運営し、生徒の校歌斉唱への積極的な取り組みを行う。	読み仮名を付した個人用の歌詞カードを作成し、それを用いて全校集会等で練習を重ねた。式典等での歌唱の音量に改善がみられた。	3.0
	行事計画	●土日の行事開催、代休日の設定等生徒の積極的な参加と地域住民の参加の促進を図る。	今年度より体育大会を土曜日開催にし、多くの地域住民の方の参加があった。	3.2
	防災教育の推進	●7月と12月の2回の訓練の実施と1月17日の追悼行事や教科等の活動を通して防災意識の高揚を図る。	1.17追悼行事は生徒会と連携して行い、3年生にはLHRで防災について考える機会を持った。	2.9
	ボランティア活動の推進	●行政機関等と連携し、生徒のボランティア活動への参加を積極的に促し、意識の高揚を図る。	生徒会の地域貢献委員会を中心に活動し、募金活動、地域フォーラム、地域の行事に積極的に多くの生徒が参加した。	3.5

学校関係者等評価

- 「スクールニュース」が地域の広範囲にわたって掲示してありよく目につく。氷上西高校の活性化に向けた情報や取組が伝わり、また、広報活動全般が生徒に自信をつける方向に向かっており、成果が出ていると考える。
- 生徒は自分の学校の広報を見て自分の学校に誇りを持つと思われるので、今後とも広報活動を今まで以上に積極的に展開してほしい。
- 生徒が自分の学校をPRしたいという思いもあるはずなので、生徒の声をHPや「スクールニュース」等に積極的に載せていく取組も実施してほしい。
- 体育大会や文化祭等に多くの地域の方の来校がある。また、氷上西高校で地域の行事が開催されるなど、年々、開かれた学校づくりが進み、地域からの信頼も高まっていると考える。
- 卒業式は厳粛な雰囲気の中挙行され、答辞などにみられるように指導が行き届いており、よい式であった。

領域	評価観点	評価項目	実践目標 (チェックポイント)	成果	評価
教務部	基礎・基本の定着	プライムタイム	●授業時間中に10分程度のプライムタイムを設定し、基礎学習、反復学習、発展学習を行い、学びの姿勢作りと基礎・基本の定着を図る。	多くの授業でプライムタイムを実施したことにより、生徒の授業に対する準備姿勢が向上し、学習姿勢の基盤ができた。	3.2
	授業改善	習熟度別授業	●1年生、国・数・英の授業を3展開の習熟度別授業とし、基礎重視学習と発展学習に加えて、進学に適した学習の授業を行う。	1学期の中間考査後、考査結果・希望調査・面談を経て、進学に適した学習の授業を行うSクラスの授業を通年実施した。	3.1
		評価規準	●指導と評価の一体化に向け、評価規準に基づいた評価を行う。	規準の設定や評価の方法について、指導と評価の一体化に向けて更に研究を深める必要がある。	2.7
		授業評価	●生徒による授業評価を実施し、授業改善を行う。	コンピュータ入力により、全学期末に実施し、授業改善に役立てた。	3.4
	自ら学び自ら考える力の育成	総合的な学習の時間	●進路を学習目標におき、多角的に考え、問題解決や探究活動に主体的に取り組む姿勢を育てる。	生徒が主体的に学ぶ学習ができたが更に生徒の進路意識を向上させる内容と方法が必要である。	2.8
		言語活動	●教育活動全体を通じ、言語活動によって思考力、判断力、表現力を発揮する学習機会を充実する。	ICT機器の活用科目、総合学習の発表等、学習機会の充実に努めたが、更に各科目に拡大する必要がある。	2.5
	道徳教育の実施	道徳教育	●教育活動全体を道徳教育の視点で検証し、生徒の道徳性と道徳的実践力を高める指導を行う。	高等学校教育における道徳教育の位置づけを既存の教科・科目、特別活動・行事等の中に見出した。	2.4
	魅力ある学校づくり	教育課程の編成	●新教育課程を視野に入れて、本校の特色となる教育課程を編成する。	本校の将来を見据え、多くの意見を取り入れて、方向性を明確にすることができた。	3.5

学校関係者等評価

- 「プライムタイム」等、学力向上に向けた積極的な取組が行われており、評価できる。今後も学力向上に向け、新しい取組を継続してほしい
- ICT機器を利用した授業が展開されていることは評価できるが、現在一部の科目での利用にとどまっており、次年度は研究をさらに進め、多くの教科での実施を望む。
- 授業公開週間を設け、今年度は地域連携の取組もあり昨年度をはるかに超える参観者があったと聞く。アンケート結果を見ると、グループ学習の導入や大型テレビの活用など授業の展開に工夫があり、生徒の授業を受ける状況も改善されているといった好評価が多かった。充実した授業に向け、今後も継続した取組を行ってほしい。

領域	評価観点	評価項目	実践目標（チェックポイント）	成果	評価
生徒指導部	生活習慣の確立	問題行動の克服	●問題行動の未然防止の指導を徹底する。校内、校外の巡回指導を実施する。	校内巡視は不定期に、校外巡視は必要に応じて行った。毎月行う全校集会で注意を行い問題行動の件数が減少した。	2.5
		校則の遵守	●学校生活の基本である頭髪や服装の指導を徹底する。 ●遅刻防止のため毎日職員室前で登校指導を実施する。	検査を毎月実施し、継続的な指導で違反生徒が減少した。 遅刻者に現時点の遅刻回数を伝え、注意や警告をし、減少につなげた。	2.2
	教育相談	指導援助	●教育相談の充実により悩みを持つ生徒の早期発見と指導援助体制を確立する。 ●教育相談に関する職員研修を実施する。	悩みを持つ生徒に教育相談を勧め、それにより生徒に前向きに取り組む姿勢が見られた。 1月にカウンセラーによるストレスマネジメントの職員研修会を実施し資質の向上に努めた。	2.9
	交通安全指導の徹底	交通マナーの遵守	●毎月1回、早朝登校指導をPTAと連携し、全職員で実施する。	毎月1回、PTAと職員が合同で交通立番を実施し生徒の規範意識が高まった。	2.6
	特別活動の充実	学校の活性化	●学校行事に積極的に参加させ、連帯意識を高める。 ●部活動・HR活動・生徒会各種委員会の活性化を図る。	体育大会、文化祭等、生徒会執行部を中心に役割を分担し、積極的に取り組んだ。 バスケットボール、バレーボール同好会が発足し活性化につながった。	2.6
保健衛生		安全教育	●職員対象のAED心肺蘇生法講習会を実施する。 ●生徒を対象にした安全教育を推進する。	10月に職員のAED心肺蘇生法講習会を実施した。 4月に自転車点検を行い、不定期に下校指導を行った。	2.8
		健康教育	●保健だよりを定期的、かつ随時発行し、生徒が主体的に健康を管理する意識を高める。 ●学校医及び学年・家庭との連携を密にし、必要な生徒に治療を促す。	保健だよりをほぼ毎月発行し、健康管理に対する啓発に努めた。 むし歯の治療状況を改善するため、学校歯科医による歯の保健講演会を本年度は2年生を対象に実施し、歯に対する健康意識を高めた。	3.1
	環境整備	環境美化	●ゴミの分別意識の向上を図る。	ゴミの設置場所を各ホームルーム教室にしたため、担任の指導がゆきわたりゴミの分別意識が高まった。また、ゴミの量がかなり減少した。	3.0

学校関係者等評価

- 生活習慣確立や部活動・生徒会活動等の特別活動の充実に向けた取組、及び地域と連携した取組が奏効し、生徒の自尊心の高まりとともに母校に対する誇りの気持ちも向上している。
- この1年間、授業参観等を通し学校を見続けてきたが、生徒の態度等に変化が現れて、よい方向に向かっている。今後も地域とともに歩む氷上西高校の発展を期待したい。
- 児童及び園児等との異年齢交流は熱心に取り組まれている。これは思いやりの心を育成するのみならず、年長者としての自覚涵養のよい機会でもあるので、さらなる取組をお願いしたい。

領域	評価観点	評価項目	実践目標（チェックポイント）	成果	評価
進路指導部	進路指導体制の充実	進路情報の整備・伝達	●各学年との連携を深め、進路HR・進路ガイダンスを実施する。 ●進路情報を効果的に提供するため、HR教室・進路閲覧コーナーの整備に努める。	各学年に進路ガイダンスを実施し、進路状況や最新データを提供した。進路閲覧コーナーの最新情報を整備した。	2.6

			●進路説明会を実施し、保護者に綿密な情報を提供するとともに、個別相談に応じる。	3年の保護者・生徒に就職・進学別の説明会を実施し、進路決定に向けての情報を提供した。 また、個々の生徒の実態に応じて、綿密な進路相談を担当とともに実施した。	2.9
	求人開拓		●既卒者の事業所を訪問し、定着を確認するとともに継続的な求人を依頼する。また、新たな求人先も併せて開拓する。	求人状況が厳しい中、100%進路決定に向けて取り組んだ。	2.7
	学力の向上		●放課後補習を実施し、進路実現に向けた学習習慣の確立を図る。また、長期休業中においても進学補習を実施する。 ●年間計画に基づいた模擬試験を実施し、実力の定着を図る。	平日及び長期休業中の進学補習を計画し実施した。 個別に指導し、多くの生徒が模擬試験を受験した。	2.5
職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	就業体験事業		●2年生でのインターンシップの実施により、職業人としての心構えを学習する。 ●卒業生を囲んでの進路座談会により、将来の進路選択に繋げる。	2年生全員がインターンシップに参加し、キャリアアップに繋げた。また、多くの生徒が各種検定を受検した。 進路座談会を実施し、また、特別教養講座として講師を招き、進路講演会を実施し、進路実現に向けて取り組んだ。	3.1
主体的な進路選択能力の育成	外部説明会への参加		●校外の進学説明会、オープンキャンパス、体験入学、職場見学への積極的な参加を促す。	主体的な進路選択を目的として、職場見学・進学説明会・体験入学などに多くの生徒が参加した。	3.0

学校関係者等評価

●進学・就職とも卒業生の進路が100%決定しており、高校側もよく努力している。現在の社会状況か求人数が減少してきているが、求人の新規開拓等の取組を今後も継続してほしい。
●研修会を熱心に開催しても生徒の学力等が向上するとは限らない。効果のある研修、例えば「オンザジョブトレーニング」は大切であるので、教員の日頃の取組と結びつけた力量向上を期待したい。
●総合的な学習の時間の中で、「キャリア教育」を扱っているが、学校改編に向け、次年度は一層系統的なカリキュラムの構築を図ってほしい。

領域	評価観点	評価項目	実践目標(チェックポイント)	成果	評価
人権教育委員会	人権意識の高揚	人権HR	●人権HRを計画的に行う。	各学年における学期ごとの人権HRを実施した。	2.6
		職員研修	●職員研修会を実施し、職員の人権意識の高揚を図る。	ウイメンズネット神戸による人権講演会(DVについて)を実施した。 3月には職員に向けてビデオ鑑賞による人権研修を実施する。	2.2
		人権意識の把握	●人権アンケート・感想文等により生徒の人権意識を把握し、指導に繋げる。	1・2学年における人権意識調査を実施し実態把握に努めた。 2学年は人権意識調査の結果をLHRに繋げた。	2.9
		諸機関との連携	●外部の関係機関と連携し、指導に繋げる。	校外の研究大会、部会、研修会等に努めて参加し、本校での人権教育に繋げた。	2.8

学校関係者等評価

●人権教育の成果は、行動で示せるかどうかで測ることができるのではないかと考えている。職員が本音で語れる人権研修と教育が大切ではないかと思う。
●今年度は、主にDVと聴覚障害についての学習を行ったと聞いているが、各学年の段階に応じた計画的な人権学習の取組を今後も続けてほしい。